

医療生協わたり病院 医学生通信

〈第9号〉 毎月1回発行

地域住民に寄り添ったプライマリ・ケアを学べる実習申込はこちらから！ → <http://watari-hp.jp/watari/index.html>

毎週水曜16時からメディカルカンファを開催、じっくり学べます



〒960-8141 福島県福島市渡利字中江町34
医療生協わたり病院 医局事務課
Tel.024-521-2056 Email: rinkens@fmc.u-coop.or.jp

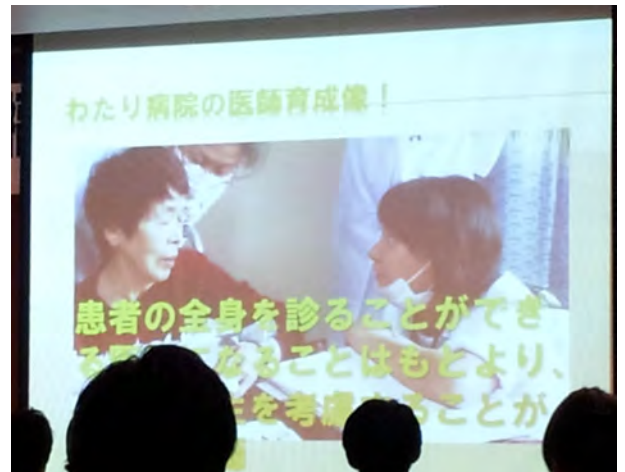


福島県臨床研修病院ネットワークガイダンスに参加してきました

11月29日福島市のエルティに福島県立医科大学の5年生の皆さんが集まり、県内すべての臨床研修病院のガイダンスが開催されました。もちろんわたり病院も参加してきました！その模様を一部お伝えします。



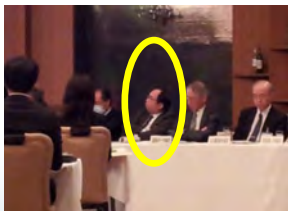
わたり病院からは初期研修医山内先生がプレゼン！絶対厳守の3分間という限られた時間の中で、ウチの研修をしっかりと伝えられるか？



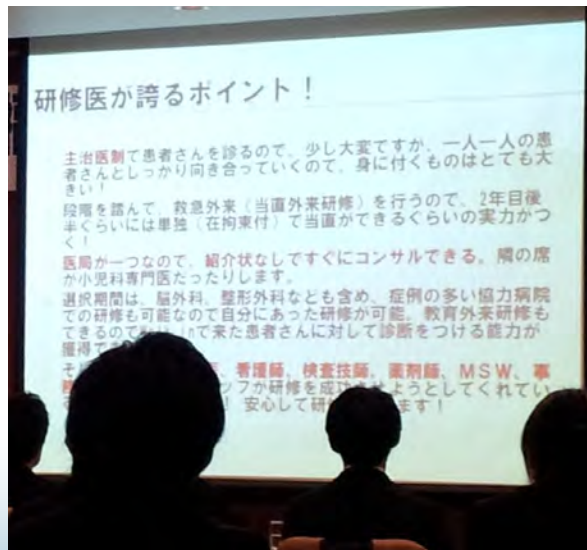
医師育成像「患者の全身を診ることができる医師になることはもとより、患者の人生を考慮することができる医師」



ちょっとオーバー？でもなんとか終了！！



山内先生のプレゼンを不安げに見つめる遠藤院長。発表後はにっこりと…笑



山内先生から当院研修のポイントや病院の雰囲気、「1年目から総合内科の主治医としてプライマリ・ケアをガッツリ学びます」とプレゼン。聞いてくださった5年生の皆さん、ありがとうございました！

ガイダンス終了後の交流会でもたくさんの医学生の皆さんとお話でき、こちらも刺激になったイベントでした。見学お待ちしております(^)/

福島県立医大のプライマリ・ケアを学ぼう会と 学習会を開催しました ～心電図セミナー～

参加した皆さんの感想



福島県立医大のプライマリ・ケアを学ぼう会の皆さんと、同医大の医療人育成・支援センターとの共催による学習会を開催しました。講師は当院研修委員長の渡部朋幸Drで、1時間ほどレクチャー、もう1時間は実際に心電図をとってみる実習をしました。12月には南会津の住民の方々を対象にした実習があるとのことでした。頑張ってください！

講義はとてもわかりやすく、例え話など取り入れられており記憶に残るものでした。取り付けの実習では、実際に自分が心電図を測定してもらい、患者さんの気持ちも理解でき、実際の臨床での対応の仕方に活かしていきたいと思いました。(5年・男子)

初めて心電図をとらせていただいて、関心が一層高まりました。講義も今までの総復習のようで基本をおさえながら聞くことができました。(4年・女子)

難しそうというイメージがありましたが、やってみると正常な波形をとることができて感動しました！(1年・男子)



講師の渡部朋幸Dr。
2013年より福島県立医大の臨床教授も務めています。

The Column

どうなる医学教育!? ～専門医制度をめぐって～ Vol.2

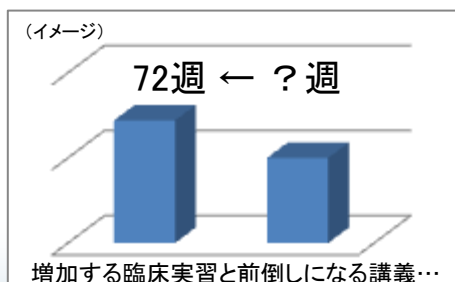
日本の医学教育における臨床実習の増加

前回はこれまでの経過を中心に書きましたが、今回はその国際基準の中身について書きます。

医学教育の国際基準において医学生にとって重要なかわりを持つのは、臨床実習時間と大学の運営へのかわりを持つこととされる点です。

その基準では、医学教育期間の全体の3分の1を臨床実習に充てることとされていますので、福島医大などでは6年生の後半は卒試や国試勉強に充てていることから、20数週ほど不足すると言われていています。また、全国の医大・医学部でもこの標準化のために、夏休みなどを更に削って対応するところもあるようです。また、臨床実習の開始時期を早めて対応するところもあるようです。

(イメージ)



大幅な変化に伴う学生自身による自治は重要

大学運営への学生の関与については、学生会や自治会の役割が重要になってくると考えられます。また学生の代表する組織が無い大学ではカリキュラム委員や大学の運営委員などを学生の中から公募し対応することになるでしょう。いずれにしても、現在よりは医学生の意見が反映された大学の運営となることでしょう。

更に細かいところでは、医学生へのカウンセリングの体制をとることとか、評価に関して申し立てできる制度を構築すること、さらに膨大な量の情報を暗記する学習や過密なカリキュラムは避けるような配慮することなどとなっています。

この医学教育の国際標準化を通して、日本の医学教育制度がより良いものになっていくことを祈っています。

文/安齋修治
(医療生協わたり病院医師
研修管理委員)

